

【神奈川県】横浜市立大学泌尿器科学教室



本教室は横浜市立大学附属病院（横浜市金沢区）、横浜市立大学附属 市民総合医療センター（横浜市南区）、神奈川県立がんセンター、横浜市立市民病院、みなと赤十字病院、横浜南共済病院、横浜市南部病院、国立病院機構横浜医療センター、国際親善病院、横浜栄共済病院、横須賀共済病院、大和市立病院、藤沢市民病院、茅ヶ崎市立病院、小田原市立病院を含む30病院（県内29病院、静岡県1病院）に160名ほどの教室員を配置する国内第2位の人口を誇る神奈川県（912万人）にあって最大の泌尿器科学教室です。

県内関連10病院にある12台の手術支援ロボット「ダヴィンチ」を駆使して、県内全域の低侵襲治療を担い、特に横浜市立大学附属病院（15名体制）はロボット腎部分切除術において毎年全国2-3位を維持するだけでなく、前立腺全摘や膀胱全摘などその他のロボット手術においても全国上位を維持しております。また、神奈川の泌尿器診療の最後の砦として高難度手術や難治症例の薬物療法を行う一方で、前立腺小線源療法や腎凍結療法などの豊富な低侵襲治療選択肢を取り揃え、県内屈指のがん診療拠点となっております。もう一つの附属病院である市民総合医療センター（12名体制）では、ロボット手術の他、腎移植、生殖医療、小児泌尿器などの特色のある診療を行っており、2附属病院にて高度泌尿器医療を網羅しております。その他の関連病院も8名体制1病院、7名体制2病院、6名体制4病院のように一病院あたりの泌尿器科医の数が多くが特徴で、本教室の大学附属病院と関連病院で研修することにより高度な診療技術を習得することが可能となっております。

研究面では、主に腎癌、前立腺癌、不妊、排尿障害の分野で国内のみならず世界をリードしております。特に腎癌においては、世界最大の医学研究機関であるアメリカ国立衛生研究所（NIH）との30年以上の長きに渡るパートナーシップから、FLCNやVHLなど遺伝子研究についての世界的業績を次々と発表しながら、全国から集まる腎癌の患者さんへ低侵襲治療の提供と最新の基礎研究成果の還元を行っております。不妊の分野では世界で初めて培養下での精子形成を成功させるなどにて国内外からの脚光を浴びており、不妊治療の国内拠点である市民総合医療センター内の生殖医療センターと合わせて国内における不妊治療研究をリードしています。このように私達はBench to Bedsideの理念に根差した研究を行いながら、教室全体で科学者としての若手医師育成に取り組んでおります。

研修システムの特徴は、診療技術、基礎科学、そして近年その重要性が増しつつある情報技術を兼ね備えた若手育成にあります。

私達のゴールは次世代を担う若手教室員へ教室の先人達が培った診療技術や科学力を伝承することであり、診療技術については豊富な症例数からロボット手術を含む高度な診療技術を教室内で標準化することにいち早く成功し、これにより若手医局員が最新診療技術の習得に早くから取り組むことが可能となっております。科学力については、本格的なゲノム医療時代の到来を見据えて、若手教室員に大学院入学を奨励し、世界と互角に渡り合う基礎研究力およびバイオインフォマティクスやデータサイエンスなどの情報技術を兼ね備えた科学者としての泌尿器医の育成を行っております。さらに大学院終了後の教室員を、アメリカやイギリスなどの世界トップ研究機関に派遣し、グローバルな人材育成を行っております。主な提携留学先として、アメリカ国立衛生研究所、ロチェスター大学（本教室出身・宮本教授の研究室）、カリフォルニア大学ロサンゼルス校が挙げられます。また最近の働き方改革、少子化や社会構造の変化に対応した新しいシステム作りの一環として、妊活、産休、育休が取りやすい職場環境の整備や、女性泌尿器科医のキャリア形成を重視した教室づくりを進め、女性幹部泌尿器科医の育成を行っております。

横浜には古くから外国人居留地が存在し、テニスやアイスクリームなどの様々な外国文化が横浜から全国へと広まってきました。その多文化が共生する気風は、3日住めばハマっ子と表現されるほどです。私達はこの横浜の地に泌尿器科医を志す情熱的な若者が全国から集い、私達の持つ伝統、診療技術、科学力を全国、全世界に広め、神奈川県、国内、世界の泌尿器医療の発展と充実に貢献してくれることを願っております。

主任教授：榎山和秀（まきやまかずひで）

連絡先：urology@yokohama-cu.ac.jp（横浜市立大学泌尿器科学・教室秘書アドレス）

